

けふばあちゃんからの手紙

—その4— あきちゃんへ

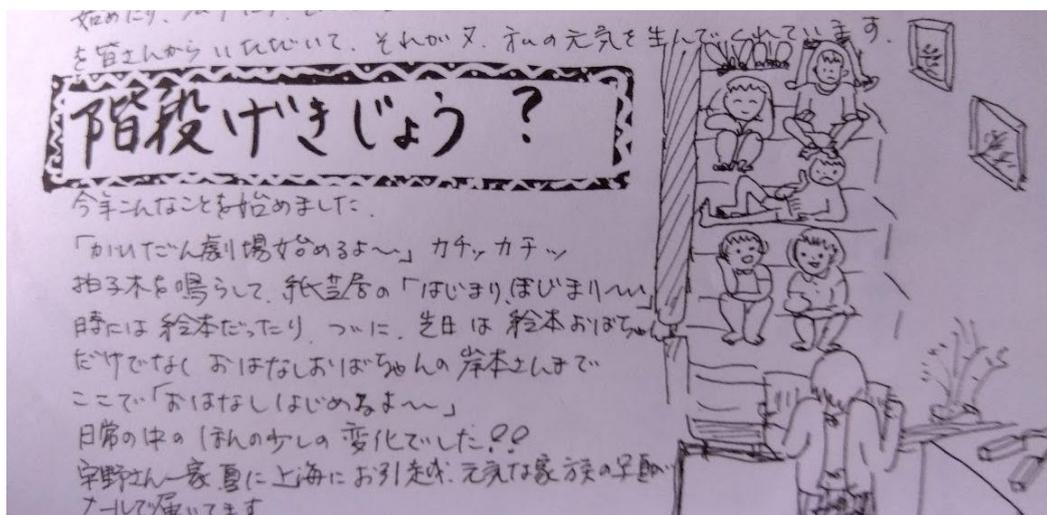
(じやりんこ文庫 乾 京子)



今年も押し詰まってきました。年々一年があつという間に過ぎていきます。今年の夏が暑くて、暑くてしかも長かったから余計秋を感じる事が少なくて、そう思うのでしょうか？

お元気ですか？どうしていらっしゃいますか？けふばあちゃんは、ちいさかった頃のあきちゃんを思い出して、ちょっとニヤツとしています。あなたは、もう覚えていないかもしれませんね。こんなことがありました。

いつものように階段劇場で常連さんのまこちゃんが紙芝居をしてくれた後のことです。階段に座っていた年中さんのあきちゃんが「けふばあちゃん、わたしがよんでもいい？」と、さとうわきこさんの『るすばん』を持ってきました。



(「じやりんこ文庫」だより 37号 2006. 6. 15 より)

「あきちゃんが読んでくれるって、みんな聞いてくれるかなあ？いい？」

ひらがなを覚えたばかりのあきちゃん、一字一字確認するように「お・る・す・ば・ん」「お・か・あ・さ・ん・が……」真ん中くらいでしびれを切らしたあきちゃんのおかあさんが、「あきちゃん、後、お母さんが替わってあげようか？」「いや、あきが読む！」

そうして、最後まで読み通しました。思わず拍手！じっと根気よく聴いていた他のみんなにも拍手！拍手！！その時、聴衆のひとり、ことみちゃんが「わたしもよみたい！！」

「えっ、まだこの子字は読めないんです。」とおかあさん。3歳のことみちゃんに読める本を探しました。でも、結局、おかあさんとことみちゃんが決めた本は、『はらぺこあおむし』でした。その本をもって、あちこち、リビングから和室へ、あきちゃんが読んでくれたおこたのところ……と、ことみちゃんの居心地のいい場所を見つけるのにウロウロ……最後に決めた場所、それは、まこちゃんの紙芝居を聞いていた階段の上の方でした。紙芝居の時と逆、ことみちゃんが階段の上で『はらぺこあおむし』を読みます。他のみんなは上を見上げて聞きました。毎日毎日、おかあさんに読んでもらっていたことみちゃんは、ちょっとだけおかあさんに手伝ってもらっただけで最後まで読み通すことができました。

「本当に読めたのねえ。えらかったねえ。すごいねえ。」とおかあさんは感激の涙。

まこちゃんからあきちゃんへ、そして、3歳のことみちゃんへ、子どもたちの“成長していきたい”というパワーにけふばあちゃんは、心を動かされた日でした。まこちゃんの何気ないいつもの行動が、小さい人たちの“あこがれ”になっていたんだね。あきちゃんが挑戦してくれて、それが次々伝播していったこの日、けふばあちゃんはね、「こどもたち同志の育ちあい」の現場に立ち会っているようで、とっとうれしかったんだよ。

あきちゃんは、どちらかという、おにいちゃんの陰で控えめにおかあさんにくっついて、そんな甘えん坊さんだと思っていたのに、この日、自分の意志をちゃんと通すしっかりあきちゃんを発見した日でした。

そして、それまで遠慮がちで表情も少なかったあきちゃんのおかあさんが、他のおかさんたちとも話し込まれるようになって、「私が一人っ子で育ったから、兄妹の扱いとか、子どもがどう思っているとか分からないことがあって、迷うことがいっぱい……。」
「そんなこと、みんなそうだよ。分からないことだらけだもん。」「そうそう、そうだよね。」
おとなもね、子育てしながら自分も成長するんだなあって、おとなたちは大人達で思ったんだよ。あきちゃんのおかあさんも笑顔が増えて、お菓子を焼いて持ってきてくださったりするようになったんだよ。



↑ (普通のいつもの文庫)

そうそう、あの時あきちゃんが読んでくれた『おるすばん』、じゃりんに文庫のみんなで図書館の「夏休みこどもの広場」に出演することになって、めくり絵に作ったんだよ。あっ、もう少し後のことだったかな？下絵は絵の得意なおばちゃんが描いて、みんなで色を塗って、配役決めて、あれも楽しかったなあ。

お元気でね。健やかに過ごしてください。そして、いい年をお迎えください。